

非通知検査の活用のご案内

一般社団法人 日本パン技術研究所
フードセーフティ部

さらなる食品安全システムの高度化を目指すために、**事前に検査日程をお知らせしない**非通知検査をご検討されてはいかがでしょうか？

(非通知検査のメリット)

1. 普段からの施設の管理レベルの向上

御社の食品安全の管理レベルは、かなり高いレベルです。日常的にも高いレベルで維持されていると推測されますが、普段の状態をチェックすることで、さらに工場全体の管理状態を向上させることが可能です。常日頃から、「あるべき姿＝食品安全上の危害の可能性を予防的に管理すること」を目指すためには、非通知検査は非常に有効なツールです。

2. 二社監査などの外部監査への対応体制の強化

突然の顧客の来場や工場見学など、外部の方々から事前の予告なしに御社を訪れることもあると思います。また、外部監査においても非通知監査が要求されるようになっていきます。非通知検査を経験することで、外部の方々への対応力の向上が期待できます。

3. 御社スタッフの食品安全に対する意識のさらなる向上

定期的な外部の目による検査は、食品安全レベルの維持向上に役立ちます。その反面、検査に慣れてしまう傾向もあります。非通知検査による刺激は、検査のマナー化を防ぎ、緊張感のある検査は、御社スタッフの意識のさらなる向上につながります。非通知検査に対応できている施設では、スタッフの間に食品安全が文化として根付いており、現場の管理レベルは高い傾向にあります。

(非通知検査システムについて)

1. 検査対象期間の設定

任意の 3 ヶ月間を検査対象期間として設定します。担当監査員は、ご指定の期間内に御社にうかがいます。

2. 不可日が設定できる

他社の監査や会社行事などがあり、検査がどうしても難しいこともあるかと思います。このような日を不可日として設定することができます。不可日の設定日数は、営業日の 10～20%程度が目安です。不可日が多くなるなど、スケジューリングが難しい場合は、特定通知検査といったシステムもあります。詳しくは弊所監査員にご相談ください。

3. 担当監査員とのコミュニケーション

非通知検査を担当する監査員が、検査を実施する前に御社にご連絡いたします。検査日程に関することはお知らせすることはできませんが、その他のご質問やお問い合わせについては、遠慮なくご相談ください。

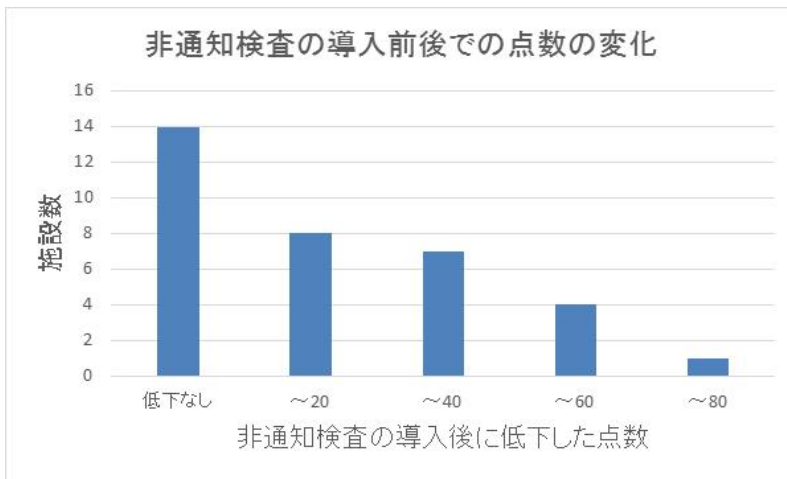
(非通知検査についてのよくある質問)

○非通知検査だと、点数が悪くなるのでは？

非通知検査の性質上、もちろんその可能性はありますが、非通知検査の点数は、事前通知検査に比べると価値のあるものです。準備をして施設の状態を整えて、検査に臨むことは悪いことではありません。一方で、マネジメント側として本当に安心できる状態とは、普段の状態でも検査を受けても、重大な問題が認められず、適切にリスクを管理できている状態ではないでしょうか。

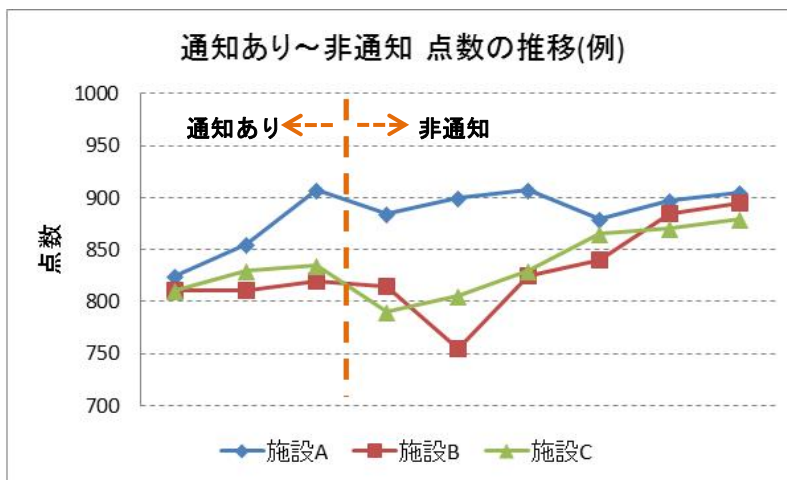
(非通知検査の導入事例)

① 非通知検査と事前通知検査の点数の比較



非通知検査の導入当初は、点数は下がる傾向にあります。直前の事前通知検査と比較して0~80点、平均すると約30点低下しています。検査においては、IMPROVEMENT NEEDED評価が増える傾向ですが、普段からSERIOUSやUNSATISFACTORYといった重大な問題が発生しないように管理することが求められます。一方、約40%の施設は、非通知検査を導入しても点数が下がらなかった。

② 通知あり検査～非通知検査の点数の推移



非通知検査の導入初期は一時的に点数が下がることもありますが、検査で見出された観察事象を振り返り、その後の管理に活かすことで、非通知検査を開始する前と同等以上の食品安全レベルを維持することが可能です。